

# 蒲田川災害復旧その2工事における安全対策について

辻建設㈱ 蒲田川災害復旧その2工事  
(工期:平成19年4月3日～平成19年12月15日)

現場代理人・監理技術者 矢後 政幸



## 1. はじめに

当工事は、神通川水系蒲田川流域、外ヶ谷での災害復旧工事でありました。  
平成18年7月の活発な梅雨前線に伴う豪雨により出水したため、各砂防施設が被害を受けました。外ヶ谷においては、特に中流部が大きな被害を受けたため、その内の第6号堰堤において、第2副堰堤及び護岸の施工を行い、施設の整備を図りました。  
ここに、本工事で実施した安全対策等についてまとめましたので、報告いたします。

### 着手前 現況

異形ブロックの散乱・右岸法面の滑り



既設第6号副堰堤支持盤



既設第6号副堰堤

### 【工事概要】

土工	掘削工	3500 m <sup>3</sup>	護岸工 (第1～第2副堰堤間)	コンクリート	244 m <sup>3</sup>
	埋戻工	1700 m <sup>3</sup>		残存型枠	316 m <sup>2</sup>
コンクリート堰堤工 (第2副堰堤)	コンクリート	1965 m <sup>3</sup>	護岸工 (第2副堰堤下流)	コンクリート	157 m <sup>3</sup>
	残存型枠	1010 m <sup>2</sup>		残存型枠	140 m <sup>2</sup>
水叩き工	コンクリート	262 m <sup>3</sup>	巨石積工		140 m <sup>2</sup>
	型枠工	1 式		仮設工	植生基材吹付
				締切工	1 式
				排水工	1 式

## 2. 安全対策について

### (1) 昇降路の設置について

本工事においては、第2副堰堤や両岸護岸の施工に伴い、昇降路の設置が不可欠です。本来、前面に枠組足場を利用したり、単管パイプや自在ステップを併用したりしての昇降路を設置していたのですが、当現場では、下記写真の自在階段（ラクラクタラップ）を利用しました。



ステップ角度  
の調整



設置状況



使用しての利点として・・・

1. アルミ合金製により重量が軽い(単管パイプ・自在ステップの併用より50%程度)ため、少人数にて設置可能
2. 施工箇所が順次高くなっていく箇所にも対応し易い
3. ステップ角度が変化可能(20° ~70° )なため、どんな勾配箇所にも対応
4. 手摺が一体。ステップ間隔が一定 etc・・・

### (2) 安全帯の使用について

高所での作業になると、作業箇所からの転落・墜落災害を防ぐための補完的措置として安全帯を使用しますが、専用の蛍光シールをフックに貼付けて(写真-1,2)、作業員の方が、本当に使用しているか否かを遠方や下からでも確認出来るようにしました。

※未使用の作業員には注意を促す！

写真-1 (専用シール)

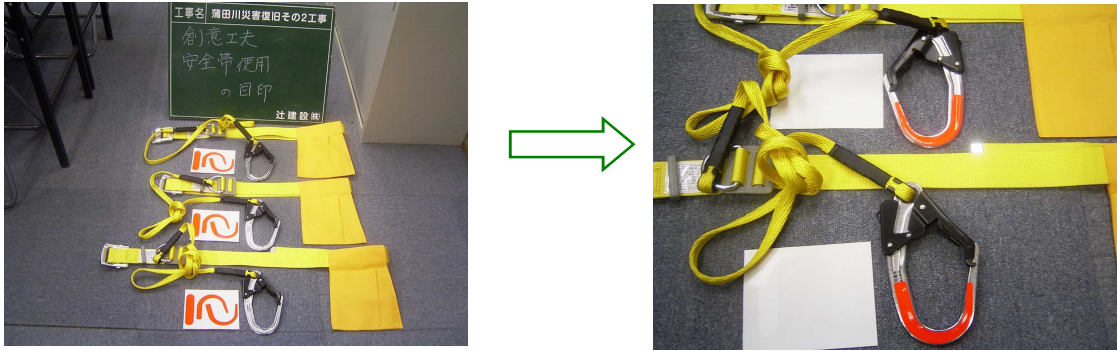
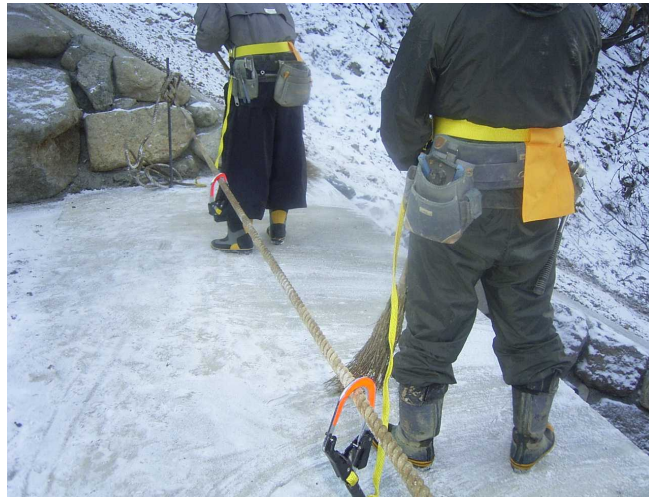


写真-2 (使用時)



(3) 路肩(現場搬入路)の転落防止について

工事用道路より、現場までの搬入路(延長約100m程度)は、工事期間中変わることがないため、鉄ピン・トラロープの軽微なものよりも、頑丈で且つ、見た目に安心出来るよう、間伐材(末口10cm)を用いて、路肩に転落防止柵を施しました。

勿論、強風等で倒壊することなく、接触した場合でも確認出来、緩やかなカーブで勾配がかかっている搬入路をよりよく認識し、安心して通行出来たのではと思われます。

施設設置状況



#### (4) 安全教育の工夫について

◎安全教育の実施において、外部からの講師を積極的に招き、より有意義なものとなるようにしました。また、蒲田川工事連絡協議会においても、合同にて避難訓練等を行ったり、消防署の方にご指導いただき、救助法の実技訓練を行いました。



合同避難訓練



救助訓練(人工呼吸・心肺蘇生)



工事連絡会による安全教育

### 3. おわりに

今回の工事においては、河川水の切り回しや限られたスペースの中での施工等で苦慮しましたが、現場で仕事をされた方々と朝礼時等でいろいろ話し合い、工夫を凝らしながら、その結果、無事に「無事故・無災害」にて完了することが出来ました。

今後もこの現場で経験したことを活かして、安全に対して高い認識を持ち続け、創意工夫を施して、より良い作業環境を築いていきたいと考えております。

最後になりましたが、工事に携わっていただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

施工時通水状況



完 成

